

2006年1月以降に上場した主な銘柄の公開価格に比べた下落率

13日終値が公開価格を割り込んでいる銘柄で時価総額上位50社が対象。業績修正は上場以降の実績で○が上方修正、●が下方修正。複数の場合は回数を示す。－は修正なし。下落率は株式分割を考慮。予想最終利益増減率の▲は下落

銘柄コード	銘柄名	13日終値(円)	公開価格比下落率(%)	通期最終修正の損益	今年度の予想最終利益増減率(%)
2477	比較コム	119,000	73.56	●●	赤字転落
3233	ファンドクリ	60,700	62.06	○●	▲69.3
2491	バリューコマ	62,200	59.87	○●	▲51.0
3812	ゲームオン	226,000	54.80	○●	▲1.1
4239	ボラテクノ	91,000	54.50	○●	▲38.3
3038	神戸物産	2,340	53.66	○●	▲13.6
2155	カービュー	546,000	50.36	○●	▲3.7
3028	アルペン	2,080	48.00	○●	▲20.3
3828	ニフティ	115,000	45.24	○●	▲5.0
2589	ゴールドバック	2,590	44.89	○●	▲12.4
2124	ジェイエイシ	12,130	44.86	○●	▲14.7
3064	モノタロウ	197,000	43.71	○●	▲37.3
2148	ITメディア	263,000	41.56	○●	▲20.5
3797	ファンダンゴ	2,885	41.12	○●	未公表
6261	日本GC	209,000	40.29	○●	連結決算化
6257	藤商事	112,000	37.80	○●	▲6.9
2497	ngi	126,000	37.00	○●	▲60.5
2131	アコーディア	123,000	36.92	○●	▲17.9
9422	ITCN	243,000	34.32	○●	単独決算化
8708	藍沢	874	32.77	○●	未公表
3793	ドリコム	514,000	32.37	○●	黒字化
8416	高知銀	214	30.97	○●	▲468.2
3040	ソリトン	1,360	26.50	○●	▲11.0
7823	アトネイチャ	5,250	25.00	○●	▲19.0
3796	いい生活	120,000	25.00	○●	▲113.1
7825	SRイスポ	145,000	23.68	○●	▲13.8
3059	ヒラキ	1,450	22.46	○●	▲63.0
8304	あおぞら銀	449	21.23	○●	▲3.7
6640	第一精工	2,530	20.94	○●	▲6.9
8409	八千代銀	499,000	20.79	○●	▲10.7
3048	ビックカメラ	159,000	20.50	○●	▲13.2
3238	セントラル総	1,115	17.41	○●	▲12.8
8347	荘内銀	343	17.35	○●	▲5.5
3078	ユニバース	1,428	16.00	○●	▲34.9
9380	東海運	576	15.29	○●	▲14.7
6258	平田機工	1,897	13.77	○●	▲7.0
7822	永大産業	460	11.54	○●	▲38.9
3396	フェリシモ	2,655	11.50	○●	▲2.2
3811	ビットアイル	99,600	9.45	○●	連結決算化
6750	エレコム	967	7.90	○●	▲40.3
3060	マガシーク	600,000	7.69	○●	▲73.6
3398	クスリアオキ	1,186	7.34	○●	▲17.8
2478	MKキャピタ	347,000	6.22	○●	▲74.3
8707	岩井証券	1,923	6.20	○●	未公表
4242	タカギセイコ	564	6.00	○●	▲15.7
3023	ラサ商事	596	5.40	○●	▲40.2
2128	ノバレーゼ	143,000	4.67	○●	▲19.2
2135	VSN	3,220	3.88	○●	▲18.9
3834	朝日ネット	388	3.00	○●	▲10.2
2150	ケアネット	168,000	1.18	○●	▲109.0

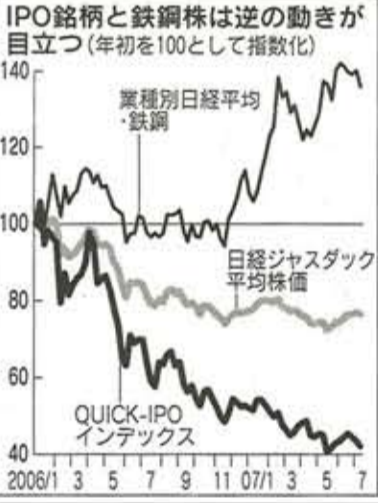
IPO銘柄見直し買い

新規株式公開(IPO)銘柄の一部が戻り歩調にある。昨年来のIPO銘柄の多くは上場直後の初値を割り込み、公開価格を下回る銘柄も六割に達する。昨年以降の新興株相場の下げにつられた形だが、業績面などの割安感から見直し買いが入る銘柄も出始めた。上場審査の強化などでIPO社数は減少傾向だが、銘柄を厳選して将来の成長に備える投資家にとっては物色の好機でもある。(城戸孝明、畑中麻里) IPO公開価格は2面「ミニ辞典」参照

ヤマダ電機が東京・池十三日、近隣に本店を構袋駅前に大型店を開いた。えるビックカメラの株価は反発し上昇基調を維持した。ヤマダ電機の店には開業前に約二万人が並び、将来の激しい競争を想起させた。株式市場においてはビックカメラ株に波乱は起きなかった。ビックカメラ株は昨年八月の上場後は軟調だったが、四月下旬に上場来安値をつけてから反転。この日の値動きは上値意欲の強さを証明した。衣料品インターネット通販のマガシーク、飲料製造のゴールドバック。表は昨年来の上場銘柄で十三日終値が公開価格を割り込んだ主な銘柄だが、網掛けの銘柄では日

割安感強まる／増益率で選別

経ジャスダック平均株価が年初来安値となった五月十八日以降、IPO以上株価が上昇した。IPO銘柄はもとより上値での売り圧力が少なく、上場後に個人など短期の値幅取りを狙う資金が集まり売買が膨らみやすかった。ところが昨年末ころから個人投資家の関心は再編期待の高い鉄鋼株などにシフト。IPO銘柄の株価低迷につな



ビックカメラの株価は戻り歩調にある(東京都千代田区の有楽町店本館)

「今がバーゲンセール。ビジネスモデルに新規性がない銘柄でもキャッシュフローの割引現在価値を計算して割安と判断すれば投資する」(アフラハム・インベストメントの高岡社一郎ポッドキャスト「リオマネジャー」との声も聞こえ始めた。

30%以上の成長

では先行買いの選別ポイントは何か。情報サイト「東京IPO」を運営するフィナンテック・コ巡。今月末に本格化する四一六期業績開示を本格的な買い戻しのきっかけと期待する向きもある。

二〇〇〇年のネット株バブル後は、急落した新興企業株が上昇基調に転じるまでに約三年を要した。今回のIPO相場低迷も本格回復までどの程度時間を要するか不透明だが、将来の成長株候補を割安に買えるタイミングではある。投資家の選別眼が問われる。